

東京多摩地区私国立中入試概況

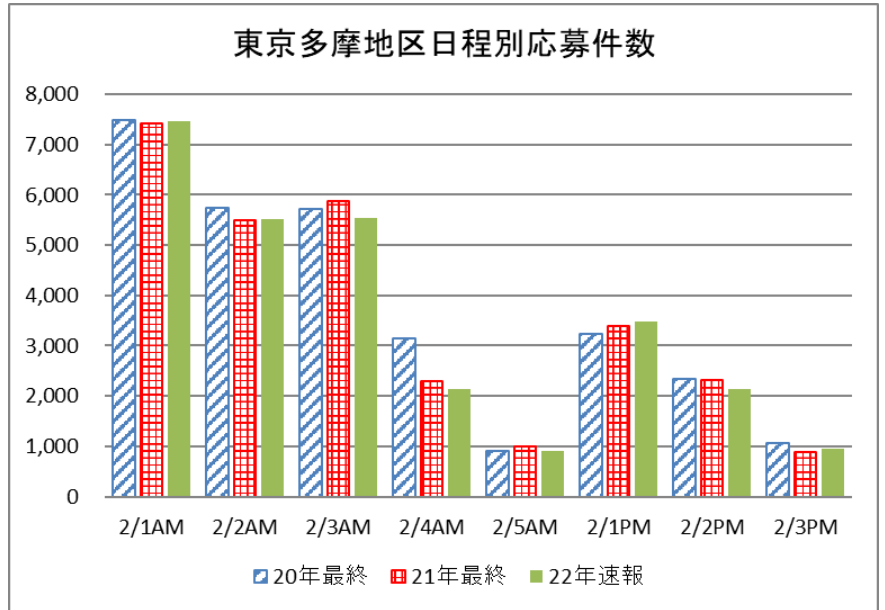
1. 概況 都心志向の影響が強く、応募総数は伸びず

今年の郡部を含む多摩地区の公立小6年生の児童数は約35,200名で、昨年より約200名増えています。1月までに実施される帰国入試を含めた、2月28日現在の中学受験の応募総数は私立、国立、公立一貫校の合計約30,500件で、昨年最終より100件減りました。コロナ禍対応の追試や追加の入試を行う学校などがあり、今後その分が上乘せされますが、最終的にも昨年並みで終了するのかもしれませんが、今年は23区や隣接各県で増加していますから、その中での減少は都心志向の強まりが理由で

しょう。コロナ禍で都心脱出、郊外移住などとマスコミでは報じられていますが、学校選択ではそうでもないようです。

実際の受験者数は約22,800名で、昨年最終の約22,500名より約300名増えています。合格者数は9,300名あまりで、昨年最終より約200名増えています。合格者数にはコース制実施校での上位コース入試での入りやすいコースのスライド合格や、特待入試での一般合格を含まない学校もありますから、「入学できる合格者数」はもっと増えますが、多摩地区でも平均倍率がやや下がっていて、やや入り易くなったようです。

上のグラフは日程別の3年間の応募者数比較です。応募総数では2月1日午前が今年も最多ですが、昨年並みの応募者数、2日午前も昨年並みの応募者数、3日午前には昨年より約6%減っています。昨年は2日午前よりも多い応募者数でしたが、今年は減って2日午前とほぼ同じ応募者数になりました。4日午前と5日午前は3日午前までよりも規模が小さい応募者数ですが、両日も応募者が減っています。なお、4日午前には昨年大きく減っていますが、吉祥女子が4日の入試を取りやめたことの影響です。午後入試は2月1日午



後の応募者が約3%増えています。午後入試は高い人気ですが、2日午前は少し減っていて、午後入試は1日だけ、と考えている受験生も多いようです。3日午後は応募者が増えたものの小規模です。

今回は、難易度による志望校選択の傾向を見てみます。次のページのグラフは、各校の応募者数を難易度別に上からA～Eの5段階にグルーピングして合計し、昨年と比べたものです。グルーピングは各年の入試直前の予想難易度をもとにしていて、毎年の受験生がどの難易度の学校をどれだけ希望しているかを表しています。公立一貫校は受験生の学力分布が幅広いため外しています。共学・別学校の応募者はそれぞれ男女別で集計し、男子校・女子校と合計していますが、男女別の内訳が未公表の学校は応募者数の半分ずつをそれぞれ男子・女子で合計しました。昨年は昨年用の予想難易度、今年は今年用の難易度を用いていますので、それぞれのグループに含まれる学校は、昨年最終と今年とでは異なる場合があります。グループの学校はグラフの下に一覧で示しています。

男子是最難関のAグループが一番少ない応募状況で、今年はやや減っています。BグループとCグルー

ブはほとんど同じで、Bグループは昨年並み、Cグループは約4%増えています。中堅校は人気が上がっていますが、D、Eグループは少し減っています。

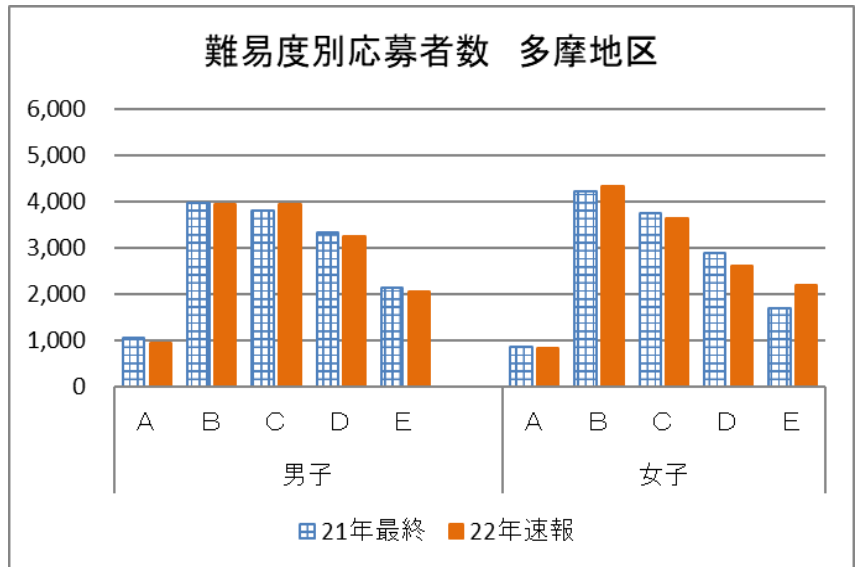
女子もAグループが最少で、やはり今年は応募者がやや減っています。最多はBグループで昨年より約3%増加しています。女子は上位校の人気が上がっていますが、C、D、Eグループと減っていきますが、C、Dグループは昨年より減っています。都心志向も影響しているのでしょうか。Eグループは、実数では最大の増加で、今年は2,000件を超えました。

以下、各校の入試状況を見ていきます。なお、都立の立川国際、南多摩、三鷹、武蔵高附属は、公立一貫校のページをご覧ください。

2. 男子校・女子校

まず男子校から。桐朋の応募者数は、2月1日の1回、2日の2回の合計で一昨年がほぼ前年並み、昨年はやや減っていましたが、合格最低点は1・2回とも昨年並みですから、出題内容との関係はありますが、難度に変化はなかったようです。安全志向の強まりで同校を挑戦で考える受験生が他校に流れたのでしょうか。受験生が絞られた結果です。

明法は国際理解、進学GRIT、サイエンスGEの3コース制です。高校募集は共学化3年目ですが、中学募集は男子校のままで、小規模な入試です。今年は2月5日午前と午後に入試を新設しました。各回次合計の応募者数は昨年並みで、今年も小規模な入試でした。合格最低点は昨年より上下が目立つ回次も見られ



◎ 難易度別グルーピング

本資料集では出願動向の分析のため、各校の代表的な入試難易度で多摩地区私国立中を次のようにグルーピングしました。学校ごとの教育内容の優劣を表すものではありません。

- A…明大明治・早稲田実業
- B…吉祥女子・成蹊・中大附属・帝京大学・桐朋・法政大学
・明大中野八王子
- C…大妻多摩・桜美林・晃華学園・穎明館・創価
・東京学芸大小金井・東京電機大・ドルトン東京学園
・八王子学園(東大医進)・明治学院
- D…工学院大附属・聖徳学園(特奨)・玉川学園・多摩大聖ヶ丘
・東京純心女子・桐朋女子・日大第三・八王子学園(一貫特進)
・武蔵野大学・明星(特選)・明法(サイエンスGE)
- E…駒沢学園女子・共立女子第二・国立音大・啓明学園
・サレジオ(小平)・白梅学園清修・自由学園男子部・同女子部
・聖徳学園(一般)・帝京八王子・東海大菅生・東星学園
・日体大桜華・八王子実践・藤村女子・明星学園・武蔵野東
・明星(総合)・明法(進学GRIT・国際理解)・和光

ますが、得点分布の影響が大きく、難度面ではあまり変化がなかったようです。

高校が併設されていないサレジオ(小平)も小規模な入試の学校です。今年も小規模で、難度もあまり変わっていないようです。

女子校は吉祥女子から。同校は一昨年まで3回入試を行っていましたが、2月4日午前の3回を廃止し、1日午前の1回と2日午前の2回の入試としました。一昨年は各回次合計の応募者数が増加、昨年は3回を廃止して大きく減って敬遠傾向も見られましたが、今年

は1回、2回とも増えて再び人気が上がっています。合格最低点は1回が昨年並みで難度に変化は見られません。2回は少し上がっています。出題内容との関係はありますが、やや難化したかもしれません。

カトリック校の晃華学園の各回次合計の応募者数は、一昨年、昨年と増加が続いていましたが、今年は2月1日午前の1回は昨年並みの応募者数、1日午後の2回と3日午前の3回は減っています。昨年増えた併願受験生が少し減ったようです。合格最低点は1回が上昇、出題内容との関係はありますが、少し難化したかもしれません。2・3回は昨年並みで難度に変化はなさそうです。受験者数が減っていますから、全体的に受験生の学力層が上がっているようです。

大妻多摩は一昨年から国際教養、総合進学の2コース制になっています。今年は曜日の関係で11月の帰国生入試を1日繰り上げたほか、2月1日の帰国生入試を取りやめました。各回次合計の応募者数は、一昨年前年並み、昨年は少し増えていましたが、今年は減っています。ただ、実際の受験者数は昨年並みで、欠席が減りましたから、人気は変わっていないと考えられます。昨年に続いて合格者は絞っていて、合格最低点は2月1日午後の総合進学が昨年並みのほかは上下が目立っています。出題内容や得点分布の関係でしょう。難度はあまり変わっていないようです。

共立女子第二も帰国生の変更のみで、11月の入試を取りやめ、1月の入試は日程を変更しています。各回次合計の応募者数は、昨年まで3年連続で増えていましたが、今年は少し減りました。実際の受験者数、合格者数も減っています。人気が一段落したのでしょうか。合格最低点は2月1日午前の適性検査型が上がっていますが、出題内容との関係でしょう。他の回次は昨年並みですから、難度面は変わっていないようです。

桐朋女子は曜日の関係で12月の帰国生入試の日程を前倒しにしました。各回次合計の応募者数は一昨年、昨年と前年並みが続き、今年は少し増えています。実際の受験者数、合格者数も少し増えました。口頭試問や英語型は合格最低点が公表されませんが、2月2日午前の記述型の入試は合格最低点が上がっていますが、得点分布の関係でしょう。2日午後のB入試は昨年並みで、難度面ではあまり変わっていないようです。

白梅学園清修は2月1日午後の2教科入試を4科から2科選択に変更、6日午前に入試を新設するなどの

変更がありました。小規模な入試だった年もありましたが、一昨年、昨年、今年と増加が続いています。実際の受験者数も増えていて、合格最低点は本稿執筆時点で公表されていませんが、難度面はあまり変わっていないようです。

東京純心女子は小規模な入試の学校です。2月5日午前に特待入試を新設、3日午前のタレント発見入試を取りやめたほか、入試科目の変更もありました。一昨年、昨年と各回次合計の応募者数が減っていましたが、今年は特待入試の新設で増えています。合格最低点はおおむね昨年並みで、難度に変化はなさそうです。

藤村女子は、特選・特進のコース分けを取りやめ、プレゼン入試も取りやめましたが、昨年新設したゲーム感覚で思考力を図る謎解き入試は続行しています。今年も小規模な入試でした。合格最低点は、本稿執筆時点で未公表ですが、難度はあまり変わっていないようです。

駒沢学園女子は2月2日午前に関係ない資格を持つ受験生を対象とした1教科入試を新設するなどの変更がありました。同校も、今年も小規模な入試でした。合格最低点は上下いろいろありますが、得点分布の影響が大きく、難度に変化は見られません。

日体大桜華は午後入試を取りやめるなどの変更がありました。同校もやはり小規模な入試で、難度に変化は見られません。

3. 男女校

付属カラーの強い学校から見ていきます。早稲田実業は、一昨年は男子の応募者が減少、女子は前年並み、男子は昨年も減少、女子もやや減っていました。今年は女子が昨年並みですが、男子は今年も少し減っています。今年は教育システムの変更で、男子は定員を削減することになったため、受験生の安全志向が強いこともあって、連続しての応募者減になったのでしょうか。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、もともと高難度で、特に男子は合格者が減っていますから、難度は緩和していません。

明大明治は、一昨年は男子の応募者数が2月2日の1回、3日の2回とも減少、女子は1回が増加、2回は前年並みで、昨年は1・2回男女とも小幅な増減でした。今年は1・2回男女とも応募者が減っています。安全志向の高まりで、憧れ受験が減ったことが減少の理由で

しょう。合格最低点は1回が男女ともやや下がっていますが、難度が緩和するほどではありません。2回は男女とも昨年並みで、難度に変化は見られません。

系列校の明大中野八王子は、各回次合計の応募者数は一昨年が少し減少、昨年は前年並みで、今年は少し増えました。比較的応募総数は安定していますが、今年は安全志向の強まりで、明大明治から流れてきた受験生もいたのかもしれませんが、合格最低点は各回次とも下がっていて、特に2月3日午前のA2回はかなり下がっています。出題内容との関係はありますが、少し入り易くなったかもしれません。1日午前のA1回と5日午後のBも、やや入り易くなった可能性があります。

法政大学の各回次合計の応募者数は、一昨年がやや減っていて、昨年は各回次男女とも増加、今年は逆に各回次男女とも減っていて、隔年的な変化です。女子の方が男子よりも減っていることが目立ちますが、この点も昨年とは逆の動きです。2月1日午前の1回は男女とも合格最低点が上昇。3日午前の2回と5日午前の3回は下がっています。出題内容との関係はありますが、1回はやや難化したかもしれません。2回と3回は少し入り易くなった可能性があります。

中央大学附属の各回次合計の応募者数は、一昨年が増加、昨年は減少、今年はやや増えて隔年的な変化になっていて、特に2月1日の1回が増えています。実際の受験者数、合格者数も少し増えていて、本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、難度面は昨年並みだったようです。

成蹊は一般入試と国際学級入試を行っていて、さらに2月1日午前の1回に帰国枠を設定しています。各回次合計の応募者数は、一昨年はやや増加、昨年は一昨年並み、今年は再びやや増えています。実際の受験者数、合格者数は昨年並みでした。合格最低点は2月4日午前の2回の女子が少し上がっていますが、男子と1日午前の1回の男女は昨年並みです。2回の女子は得点分布の関係でしょう。各回次とも難度に変化はなさそうです。

独特な存在の創価は、2月1日午前のみ入試です。今年は4科の他に、国算英も選択できるようになりました。応募者数は、一昨年は男女とも少し減っていて、昨年は男子が若干減、女子は減っていました。今年は男子が少し減って、女子は若干増えました。合格最低

点は公表されていませんが、女子は昨年並みの難度、男子は少し入りやすかったかもしれません。

明治学院は、昨年まで各回次合計の応募者数の増加が続いていましたが、今年はやや減っています。各回次とも男子が減ったほか、女子は2月4日午前の3回も少し減りました。2日午前の2回は男女とも昨年並みの合格最低点で、難度に変化はなかったようですが、1日午後の1回は男女とも上昇、出題内容との関係はありますが、難化したようです。受験生の学力層が高くなったようです。3回は男女とも少し下がっていて、やや入り易くなったかもしれません。

玉川学園は国際バカロレア(I B)クラスを持つ学校です。今年はいBの帰国生入試の日程が変更されたほか、2月1日午後に英検資格の1教科入試が選択できるようになるなど、科目変更を行った回次が目立ちます。各回次合計の応募者数は一昨年が増加、昨年は若干減っていて、今年は再び増えています。実際の受験者数も増えていますが、合格者はやや増えただけで、平均の実質倍率は上がっています。合格最低点は例年未公表ですが、少し難化したかもしれません。

東海大菅生は医学・難関大コースと総合コースの2コース制ですが、入試結果は一括で公表しています。各回次合計の応募者数は、一昨年、昨年と増加、今年は厳密には減っているものの、昨年並みと言ってよいでしょう。実際の受験者数と合格者数は昨年並みでした。今年から合格最低点がこの時期に公表されるようになりましたが、不合格者が少なく、難度は変わっていないようです。

帝京八王子は小規模な入試が続いている学校で、今年2月5日午前・午後、7日午前の入試を1日繰り上げました。今年も小規模な入試で、難度も変わっていないようです。国立音大附属は、音楽のプロを目指すコース、音楽教養のコース、一般的な文理コースの3コース制で、同校も小規模な入試の学校です。各回次合計の応募者数は少し増えていて、難度はあまり変わっていません。

系列大学があっても付属カラーが薄い学校では、帝京大学は、一昨年は2月1日午前の男子が前年並みの応募者数だったほかはすべて増加しましたが、昨年は各回次男女とも減っていて、今年は各回次合計ではやや増えています。実際の受験者数、合格者数も少し増えていて、合格最低点は2日午前の特待が上昇してい

ます。他の回次は昨年並みですから、特待の上昇は出題内容の影響でしょう。全体的には昨年並みの難度だったようです。

桜美林は曜日の関係で帰国生入試の日程を変更しました。各回次合計の応募者は一昨年から減少が続き、今年も減りました。難化が進んでいたため、敬遠ムードが起きていて、減っているのは併願前提の受験生が中心です。本稿執筆時点で合格最低点は未公表で、実際の受験者数が減っていて、合格者数は昨年と大差なく、実質倍率は緩和傾向ですが、受験生の学力水準が上昇傾向で、あまり入り易くなってはいないようです。

東京電機大は特に入試に変更点はありません。各回次合計の応募者数は、一昨年は前年並み、昨年は増加、今年はやや増えています。2月1日午前の1回と午後の2回の男子が増加の中心です。合格最低点は2日午前の3回と、4日午後の4回の女子が上がり、4回の男子は下がっています。4回は合格者数もあまり多くないので、得点分布の関係でしょう。3回は少し難化したかもしれません。昨年とあまり差がない1・2回は昨年並みの難度でしょう。

工学院大附属はハイブリッド特進とハイブリッド特進理数の2コースを統合して先進コースとし、ハイブリッドインターコースはインターナショナルコースに改称、思考力入試を取りやめて適性検査型を新設、2月5日の入試を6日に移すなど、多くの変更がありました。各回次合計の応募者数は一昨年、減少から増加に転じ、昨年、今年と増加が続いています。実際の受験者数、合格者数も増えました。合格最低点は、昨年の未公表でしたので比較できませんが、難度はあまり変わっていないようです。

武蔵野大学は帰国生オンライン入試を新設、プレゼン型の自己表現入試を取りやめて、アドベンチャー入試の日程変更や適性検査型入試の科目の変更などがありました。2019年の共学化、校名変更で応募者は大きく増加、一昨年も増加しましたが、昨年は少し減りました。しかし、今年は再び各回次合計の応募者が増加、人気が上がっています。本稿執筆時点で合格最低点は公表されていませんが、受験生の学力層が上昇傾向で、やや難化しているかもしれません。

日大第三は、入試の日程や科目に変更はありません。各回次合計の応募者数は、一昨年は増加、昨年も少し増えていましたが、今年は厳密には減っていますが、

僅かで昨年並みと言ってよいでしょう。実際の受験者数も少し減っていますが、合格最低点は各回次とも昨年並みで、難度は変わっていないようです。

多摩大聖ヶ丘は2月2日午後の3回を3日午後、3日午前の4回を4日午前に、昨年新設のリスニング入試を3日午後から4日午後に移しました。一昨年は各回次合計の応募者数がやや減少していましたが、昨年、今年と増加が続いて人気が上がっています。実際の受験者数、合格者数も増えています。合格最低点は各回次とも昨年並みで、出題内容との関係はありますが、難度面は総じて変わっていないようです。

明星はグローバルサイエンス(MGS)と本科の2コース制から特選と総合の2コース制に移行しました。入試の設定も、算数1科目、英語1科目を取りやめて、2月1日午前入試で2科の他に国英、算英の選択を追加、4日の入試を午後にするなど、大きく変更しました。入試の新設が盛んで、昨年まで各回次合計の応募者数は増加を続けていましたが、今年は減っています。入試の変更点が多く、合格最低点は単純比較しにくいのですが、特選は昨年のMGS並み、総合は昨年の本科並みの難度だったようです。

独特な教育方針の和光は特に入試に変更はありません。各回次合計の応募者数は、一昨年、昨年と前年並みが続きましたが、今年は減って小規模な入試になりました。合格最低点は公表されていませんが、難度は特に変わっていないようです。

純然たる進学校では、穎明館は2月4日午前の4回を国社中心の総合Ⅰ、算理中心の総合Ⅱに変更、21世紀型の学力観に対応する変更などを行いました。各回次合計の応募者数は一昨年大きく増加、昨年は減っていて、今年は増加と隔年的な変化です。実際の受験者数、合格者数も増えていますが、合格者数の増加はあまり多くないこともあって、2月1日午前の1回の4科は合格最低点が上がっています。第一志望の受験生が多い回次ですが、少し難化したようです。4回は科目変更で単純比較はできませんが、得点率は下がっています。こちらは出題内容の関係でしょう、他の回次の合格最低点は昨年並みですから、1回以外は昨年並みの難度だったようです。

開校4年目に入るドルトン東京学園は、曜日の関係で12月の帰国生入試の日程を変更、オンライン帰国生入試を新設、2月1日午前の思考力入試を、思考表現

型として2日午前に移し、2日午後を理数特待入試として国算は取りやめるなどの変更があります。各回次合計では初年度に650名近い応募者があり、一昨年、昨年とさらに増えていましたが、今年は減っています。しかし、実際の受験者数は増加していて、受験生が絞られた入試でした。合格者数は昨年並みです。本稿執筆時点で合格最低点は未公表ですが、やや難化したかもしれません。

八王子学園は東大医進と一貫特進の2コース制です。今年は入試に特に変更点はありません。一昨年は各回次合計の応募者数が大きく増加、昨年はやや減っていて、今年は厳密には減っていますが、昨年並みでしょう。実際の受験者数、合格者数もやや減っています。合格最低点は、1日午前の東大医進の4科と3日午後の一貫特進が少し下がり、1日午前と2日午前の適性検査型が上がっていますが、出題内容や得点分布の影響でしょう。他の回次や科目選択も含め、難度はあまり変わっていないようです。

聖徳学園は、2月1日午前のAO入試の作文を基礎2科に変更しました。プログラミング入試を新設するなど、ICTの利用を積極的に進めています。各回次合計の応募者数は、一昨年が増加、昨年も少し増えている、今年はかなり増えて人気が上がっています。実際の受験者数、合格者数も増えていて、合格最低点は2月1日午前の1回がやや上がり、午後の特奨入試は下がっていますが、出題内容や得点分布の関係でしょう。他の回次は昨年並みですから難度に特に変化はなかったようです。

独特な教育方針の明星学園は、曜日の関係で帰国入試日程を変更しました。各回次合計の応募者数が一昨年はそれまでの増加から前年並みになり、昨年は増加。今年は厳密には減っていますが、昨年並みと言ってよいでしょう。実際の受験者数は昨年並み、合格者数はやや減っています。合格最低点は公表されていませんが、難度は昨年並みでしょう。

国立の東京学芸大小金井は一昨年まで前年並みの安定した応募者数が続いていましたが、昨年は女子の応募者が増加、男子も少し増えていて、今年は男女とも少し増えています。今年も補欠が出ていて、難度はあまり変わっていないようです。

帰国生教育が特色の啓明学園は小規模な入試の学

校で、今年は曜日の関係での帰国生入試の日程変更やオンライン帰国生入試新設などの変更がありました。一昨年は各回次合計の応募者数が倍増しましたが、昨年、今年と少しずつ減っています。合格最低点は本稿執筆時点で公表されていませんが、難度面はあまり変わっていないようです。

インクルーシブ教育の武蔵野東は、小規模ですが多彩な入試科目の学校です。今年も日程による科目の配置などの変更がありました。各回次合計の応募者数は昨年並みで、難度も昨年並みでしょう。

八王子実践は、2月1日午後と2日午前に入試を新設、13日の入試を6日午後と2日午前に繰り上げるなどの変更があります。同校は2科や4科の入試を取りやめていて、適性検査型、自己表現、英語、プログラミングなどの入試ばかりです。もともと小規模な入試で、今年も応募者が増えています。小規模で、難度も変わっていないようです。

自由学園は男女別学の独特な方針の学校で、入試は小規模です。今年も帰国生入試の日程を変更しました。最近では広報活動にも力を入れています。今年も応募者が増えたものの小規模な入試で、難度も特に変わっていないようです。

東星学園も、2月1日午後と2日午前に入試を新設するなどの変更があり、今年も応募者が増えましたが、やはり小規模な入試で、難度も昨年並みだったようです。

☆